

働きがいある組織つくるには

エンゲージメント向上講座開催

日本生産性本部は6

月4日、「人を育て、

チーム力を高める」エ

ンゲージメント向上の

ためのファーストステ

ップ」をオンライン(Z

oomウェビナー)で

開催し、150人が参

加した。当日は、アト

ラエの中村友也wev

oxカスターマーエンゲ

ージメントと同本部の

寺沢俊哉主席経営コン

サルタントが、エンゲ

ージメントツールを活

用した働きがいのある

組織のつくり方などに

ついて講演した。

中村氏は、「エンゲ

ージメント」(組織や

仕事に対して自発的な

貢献意欲を持ち、主体

的に取り組んでいる状

態を表した指標)が注

目されている背景につ

いて、「社員の働きが

いが向上すると経営指

標や組織課題解決にプ

ラスの影響がある。労

働生産性や顧客満足度

が向上し、社員の定着

率向上も期待できる。

現場リーダーのエンゲ

ージメントが高いと、

売上伸長率が高いとい

うデータもある」と指

摘した。

そのうえで、アトラ

エが開発した「wev

ox」(ウィボックス)

は、エンゲージメント

を可視化・分析するこ

とによって、効率的に

組織改善のサイクルを

生み出すツールであ

り、1900組織、4

900万件の回答デー

タの蓄積があること

や、従業員は組織風土

や人間関係、自己成長

などに関する項目に3

分程度で回答すればよ

く、IDやパスワード

の管理は不要であるこ

と、他社平均との比較
ができ、他社の改善事
例も閲覧できることな
どを説明した。

寺沢氏は、エンゲ

ージメント向上のポイン

トは、職場間における

対話の場づくりである

ことを強調し、そうし

た活動の成功事例とし

て、「wevox」を

導入し職場や個人の状

態を可視化することで

職場主導の組織改善を

継続的に行っている三

井住友海上や、組織の

部門や年代の壁を越え

て「ハミダス活動」(今

の立ち位置から一步ハ

ミダス、自分で決めつ

けてしまった枠組みか

らハミダスなど、従業

員のハミダス気持ちを

カタチにする活動)を

展開しているニチレイ

フーズ、社員一人一人

の望む生き方・働き方

と企業の目指すあり方

の重なりを尊重する活

動などを展開し、20

20年度の日本経営品

質賞を受賞した日鉄工

材の3社を紹介した。

また、寺沢氏は、エ

ンゲージメントのツ

ルを活用する際には、

経営陣は導入の意図を

熱く語るとともに事業

計画などの連動を図

る必要があることや、

組織メンバーの自己開

示や協力関係の構築が

重要であること、小さ

なことでもいいから組

織メンバーに成功体験

を持ってもらうことな

どを指摘した。